

中小企業景況調査結果(平成26年1~3月期)

中小企業の業況は、緩やかな改善傾向にある。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成26年1~3月期実績と平成26年4~6月期見通しについての調査結果(回答数90社、回答率90%)をまとめた。本調査は3ヶ月毎に年4回行う。

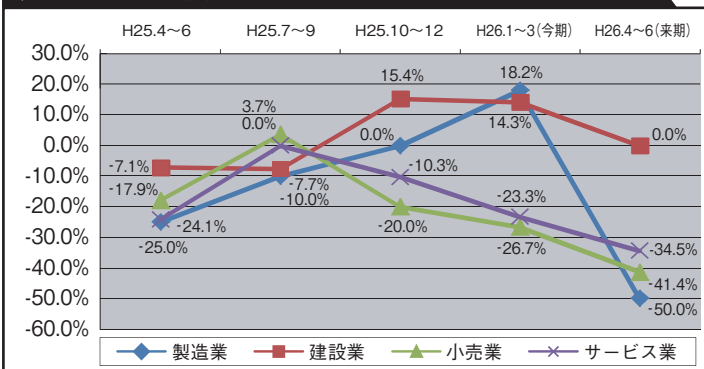
全業種のDI値に見る業況判断動向を前期と比較すると、前期▲18%→▲14%とマイナス幅が縮小し、緩やかな改善となった。業種別にみると、製造業:0%→18%、建設業:▲7%→14%、小売業:▲33%→▲27%、サービス業:▲14%→▲23%であった。前回の調査時点では、新規設備投資を実施した企業は全体の20%であったが、今期19.8%であり、大きな変動は見られなかった。来期の設備投資計画を予定している企業は17%であり、消費税増税後の影響が考えられる。

経営上の問題点については、全業種が依然として需要の停滞を問題点として挙げており、今期も解消されていない。また、前期に引き続き、仕入・材料単価の上昇を挙げる企業数が多く、来期は消費税増税後の影響が懸念される。

◆業況DI値(今期の状況)

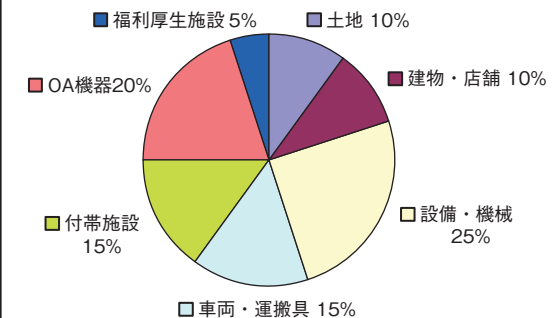
	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	-14%	↗	-13%	↗	-12%	↘	29%	↗	-25%	↘	-6%	↘
製造業	18%	↗	8%	↘	-27%	↘	55%	↗	-8%	↘	-18%	↘
建設業	14%	↗	27%	↗	13%	↗	40%	↘	-7%	→	-13%	↘
小売業	-27%	↗	-37%	↘	-13%	→	10%	↘	-33%	→	3%	↘
サービス業	-23%	↘	-13%	↗	-14%	↘	32%	↗	-30%	↘	-7%	↘

◆産業別業況判断DI(前3期からの推移と来期見通し)

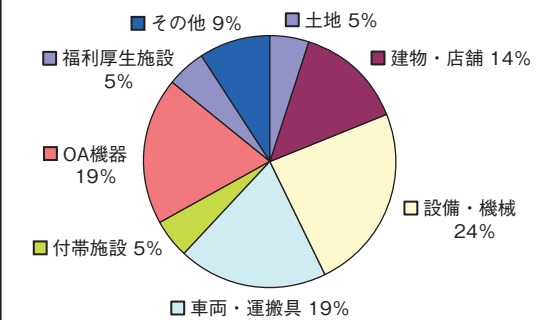


◆新規設備投資(今期実施・来期計画)

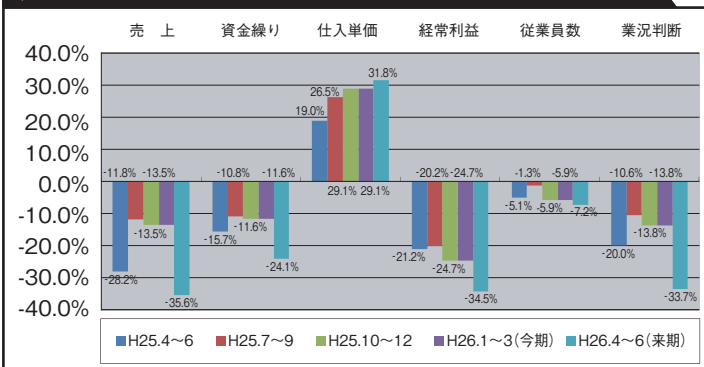
【今期の実施内容】



【来期の実施計画】



◆全産業DI項目別比較(前3期からの推移と来期見通し)



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	その他 25.9%	取引条件の悪化 12.8%	消費者ニーズの変化への対応、需要の停滞 15.5%	利用者ニーズの変化への対応 15.4%
2位	需要の停滞 22.2%	材料価格の上昇、需要の停滞、従業員の確保難 10.3%	購買力の他地域への流出 11.3%	新規参入業者の増加、需要の停滞、従業員確保難 10.8%
3位	製品(加工)単価の低下・上昇難 18.5%	新規参入業者の増加、材料の入手難、請負単価の低下 7.7%	仕入単価の上昇 9.9%	大企業進出による競争激化、材料等仕入単価の上昇 9.2%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。